



学校と地域で未来を創るための協議会

三中コミスクだより



令和8年度 コミュニティ・スクール(CS) 活動報告

7/8(水)に第2回学校運営協議会を行いました。今回は、以下の3点について熟議を開始しましたが、(1)(2)の熟議が充実したため、(3)につきましては次回に持ち越しとなりました。



- (1)休日部活動の地域展開における進捗状況
- (2)学校の諸問題について(業務量管理・健康確保措置実施計画)
- (3)「地域を好きになる中学生」育成のための具体案①

(1) 休日部活動の地域展開における進捗状況

少子化と教員数減少により現状の部活動を維持していくことが困難であること、今年9月以降の休日部活動には原則教員が関わらず、はまクル認定クラブ等の活動に移行していくこと、さらに、学校部活動としては、来年度はソフトボール、男子ソフトテニス、女子バレーボール、剣道(女子)の4部を募集停止する方向であることなど、熟議の前に現状確認を行った。また、先々の見通しとして、令和16年度(8年後)には中学1年生が現在の約半分(50人以下)になるであろうことも確認した。



* * * * *

☆はまクル認定クラブを含め、様々な活動に参加できる利点はあるが、各々の活動拠点はほとんどが三ヶ日から遠いものが多く、送迎等の負担も考えると、地域での受け皿作りの必要性がある。

部活に入っていない子供を持つ親の視点から考えると、放課後の過ごし方への不安と遠方への送迎の負担が課題となる。(委員)



「部活動＝学校生活」だった自身の経験から、生徒が何を楽しみに学校にくるのだろうか?(委員)

募集停止となる部を男女統合して継続出来ないか?(委員)

顧問2名体制のガイドラインや大会日程の重複から考えると、現状の教員数では困難である。しかも、生徒数が減れば、教員数も減るため、先々を考えると…(学校)



「学校に任せれば安心」という従来の価値観を捨て、余暇をどう過ごさせるかは「自己（家庭）の責任」として親が子供と対話すべき段階にある。地域は地域で様々な活動があり、人材不足でもある。簡単には部活動の受け皿を作れないのが現状である。（委員）

地域や自治会のサロンに中学生をうまく巻き込めないだろうか。（委員）



中・高校生がスタッフとして参加してくれると本当に助かるし、人間力もついてくと思う。（委員）

部活動の地域展開は意欲のある子供には選択肢が広がる一方、受け身な子供が心配。学校の部活動にこだわらず、祭りのような地域行事を拡充し、中学生の出番を創出していくことで社会との接点を作って行けるのではないか？（委員）

☆ これまで総合的な学習の時間のひとつのプロジェクトとして行ってきた活動である「三ヶ日牛バーガープロジェクト」を地域の協力を得ながら立ち上げ、全7回（学ぶ・作る・販売する・振り返る等）で活動する。部活動に代わるものではないかもしれないが、一つのアクションとして今後につなげたい。（委員）



☆ 他校の総合的な学習の時間におけるアドバイスの経験を交え、大人が過去の習慣で「枠」を作らず、部活動という形ではなくても地域の大人が「子供たちのことを諦めていない（育てていく）」という姿勢を見せることで、子どもたちに何かを感じさせることができるのでは？（委員）

* * * * *

（2）学校の諸課題について 業務量管理・健康確保措置実施計画

☆ 教職員の業務量が多く疲弊している現実がある。また、多岐にわたる業務量が起因し、教員採用試験の倍率が1倍を切る市町もある。今や学校だけでは対応が難しくなっていることも増え、地域と共に学校づくりを進めていく必要があり、業務管理をすると、これまで学校が担ってきたこと全てを担うことは不可能となる。また、教員以外にも日常の業務を担うスタッフの配置はあるが、時間的制約もあり十分とは言えないのが現状である。



☆ 学校は地域や保護者に移行できることへの精査と意識改革を、また、新しい活動を始めるなら既存業務を削る「スクラップ・アンド・ビルド」を学校内で徹底すべきではないか。（委員）

☆ 教員が多くの時間を費やす業務、廃止しても良い業務を精査してみてもどうか。（委員）

予想以上の速さで変化する社会において、「従来の学校」のままでは対応できないことも増えました。今後も皆様とともに地域に根差した「新しい学校」を創っていくことが必要となります。三ヶ日町の明るい未来のために、ぜひ皆様方のお力添えをよろしくお願いいたします。

三ヶ日中ホームページ



令和8年度のCS